

小さな勇気からはじまること

城北中学校 二年 古賀 琉々菜

他人を傷つける人がいる。これを当然だという世の中にしてはいけない。安心して暮らせる社会は、誰もが望むことです。毎日耳にする、事件のニュース。どうしてそんな事をしてしまうのだろうと、いつも疑問に思います。自分は何ができるのか、どうしたら犯罪や非行がなくなるのだろうか。

私は、犯罪や非行と、何が関係してくるのか考えたときに、周りの環境もあるのではないかと思います。罪を犯した人の中には、子どもの頃の家庭環境や、いじめ、人間関係など、複数の原因があります。

大人だけでなく、小中学生などの犯罪や非行が増えてきていて、実際、いじめを受けていた人がうらみ、罪をおかしてしまう、といったこともあります。私は、それを知ってとても驚きました。いじめる人がいなければ、このような事はおきなかったはずです。

罪をおかしてしまった人でも、はじめから悪い人ではないと思います。なにか、周りの環境がその人を変えてしまったのではないのでしょうか。本人の責任であることは、間違いありません。でも、周りの人が全くの無関係であると、断言はできないはずです。

現在、刑務所で刑期を終え、出所した人を受け入れる状態を、つくりたいのでしょうか。私は、できていないと思います。なぜなら、就職できなかつたり、住む家を見つけられなかつたりということがあからずからです。罪をおかしてしまった人だけ、その罪を、つぐなって復帰した人です。差別や偏見は、またその人を同じような気持ちにさせてしまい、そうになると、生きづらくなってしまおうと思います。

では、立ち直りを支えていくために、苦しむ人が減るために、何が重要なのでしょう。

まずは、過去の過ちを反省し、社会復帰した人たちをきちんと理解することです。やはり、犯罪や非行と聞くと、よくない印象があります。私も最初に、危険で、怖い人という

イメージをもってしまいます。でも、罪をつぐない立ち直ろうとしていることを知り、理解を深めなければいけないと思いました。理解すれば、差別や勝手な偏見もなくなり、その人も過ちを繰り返すようなことはしないと思います。

もう一つは、そんな人達を支えていくことが大切です。差別や偏見の目でみられ、苦しんでいるかもしれません。その人が何を感じながら生きているか分からないけど、受け止める、受け入れる心をもつことが支えになるのではないのでしょうか。

私が、特別何かできるわけではありません。でも、要因を防ぐことはできます。誰かを傷つけている人がいたら、とめる勇気をもつ、傷ついている人がいたら手を差し伸べる。小さなことだけど、きっと心の支えになるはずです。よりよい社会へと行動する人が増えていけば、生きづらさを感じる世の中ではなくなると思います。小さな勇気が、苦しむ人を減らせます。そしていつか、犯罪や非行のない明るい社会になることを信じています。